



だより

— つながれ ひろがれ —

Vol.26

編集 環境パートナーシップちば
 代表 横山 清美
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団 環境学習推進室内
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

環境月間 各地での催し

千葉県

環境研究センター エコパーク

環境研究センター 小倉 久子

6月29日は千葉県環境研究センターのエコパーク。昨年からエコ・グループの活動の発表コーナーを作り、市民と一緒に作り上げていく行事になりました。

お客様は約140名(主催者発表)で、「大入り満員」にはなりませんでした。今年は環境生活部長ご夫妻がおいで下さったこと、リピーターの女の子たちが来てくれて、子供たちのほうがおじさんたちの顔を憶えてくれたのが、うれしいことでした。

また、お客さまが少ない時間帯は、エコ・グループ同士の交流タイム。私もいろいろな方と、お話をさせてもらったり教えてもらったりできて、楽しかったです。



幅広い知識！環境カウンセラー千葉協議会

浦安市

浦安市環境キャンペーン

6月29、30日の2日間にわたり浦安市環境キャンペーンが行われました。市内の

各団体の活動紹介や、新浦安駅前のダイエーのステージを使っ

ての発表に多くの方が足をとめていました。浦安三番瀬に親しむ日の出小学校生徒は、「三番瀬に行こう」の歌や、ごみ拾いで学んだ「これからの生活の提案」を見せてくれました。子供から大人にゴミ問題を訴えれば、関心の少ない親も変わりそうです。

ストップ地球温暖化ちば推進会議からは、内野さんと広田でパワーくんを使っての実験「あなたのパワーはどのくらい？」や、エコチェックを行いました。省エネに関心のある女性や、社内でISOに携わっている男性が熱心に参加してくれていました。その他、石原良純氏による環境講演会や、映画「ダイオキシンの夏」(無料上映!)、市内の環境団体の展示も駅前ロータリーと駅ビル内とに分かれ、盛りだくさんの2日間でした。(広田)



いつも笑い声がいっぱい
千葉ごみゼロを考える連絡会(エコパークにて)



日の出小学校のみなさん

船橋市

船橋市環境フェアに参加

千葉ごみゼロを考える連絡会
「インふなばし」

小野 朗

ふなばし環境フェアが6月8日(土)船橋市中央公民館において開催され、当会も昨年に引き続き参加させて戴いた。体験・実演コーナーの併設の展示で、内容は

1. ゴミ減量化のための買い物袋持参運動(レジ袋辞退)の展示
2. 台所から出る生ゴミによる堆肥化と無農薬での野菜作りの展示
3. 体験型の展示(廃物の再利用)

今回は卵の殻を利用してハーブ等の中に入れ、芳香剤型の置物をつくる
新聞折り込みチラシを活用して、自分流のハガキをつくる

過去の経験より、パネルだけの展示は来場された方になかなか見ていただけないので、体験型の実演を今回取り入れました。その場で作り方を教わりながら自分のお気に入りのものを作り、廃物利用を体験してもらいました。その後、船橋市の藤代市長が私たちのコーナーにいらした時には、体験型のコーナーについて細かくご覧戴きました。今後とも、市民の方に少しでもお役に立つよう頑張ってお参りたいと考えております。

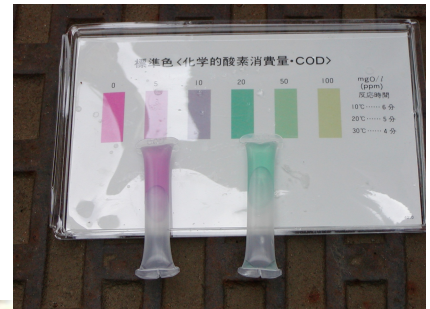


ふなばし環境フェアにて



ひかり子供会のみなさん

船橋では、今年をはじめ、環境フェアの一環として環境学習発表会の場を企画したそうです。小中学校7校が、市民団体との関わりが伝わる地域の特色を出したすばらしい体験・研究の発表しました。参加校からも、来年も是非出たい等とても評判が良かったそうです。(広田)



6月より環境学習が

スタート！！

千葉県環境学習アドバイザー

中岡 丈恵

船橋市葛飾公民館では、学校が休みになった土曜日の講座をはじめました。

自分達の流した水の行方を追いながらきれいにする方法を学習しています。この日(6/22)は、「みずべのたんさくとせっけんづくり」と題した、手賀沼親水広場へのバス研修でした。

手賀沼の水の汚れをCODと洗剤の排水を調べ、廃食油でのせっけん作りをしました。付き添いのお父さんやお母さんも急にお手伝いをお願いしましたが、生き生きと楽しく作業に参加してくれました。

こどもたちから婦人会のお母さん、生活学校のお祖母さん、床屋さんの組合の方など環境学習は広がっています。



みんなで楽しくせっけん作り

第7回エコサロン

ニュースタートを支援する人間ネットワーク



若者の引きこもりが増えている。その背景には豊かな社会と高齢化社会があり、働かなくても生きてゆける状況の中で何のために働くのか、わからなくなっている。一見環境問題と無関係なところにある若者の引きこもりだが、豊かな社会の裏側にある環境問題への苛立ちとも繋がる。

今回のエコサロンは、浦安市に事務所を持って不登校の生徒や引きこもりの若者の「新たな出発(ニュースタート)」を支援するNPO法人ニュースタート事務局代表の二神能基さん。すべての人間を障害者として理解し、それぞれ違った障害を開かれた家庭で支えあうことを目指している。

「ニュースタートプロジェクト」のはじまり

きっかけは約10年前、イタリアで4軒が家族を開きあって農場を共同経営しているドキュメンタリー番組をみたことであった。そこでは子供を育てるには二人の親では絶対に足りない、家族を開いているんな人の力を借りないと子供を大人に育てられないとの主張があった。当時、日本でも大人になりきれない若者が増えはじめ、社会問題化していた。そこで、そのイタリアの農場に日本の若者を送り込んで彼らの新しいスタートを支援しようとニュースタートプロジェクトを発足させた。

イタリアには、精神病院、盲学校などの特殊学校、さらには老人ホームなどがなく、いろんな障害を持った人たちが社会の中で支えあっていくということが自然に認められている。

それ以降、家族を開くことと、すべての人間は障害者であり、支えあう必要があるということを基本的な主張としているような活動を展開させている。

引きこもり増加の背景

引きこもりの定義を、「半年以上、家族以外と人間関係をもたない」とすると、この10年で急増し、最近では全国で100万人といわれている。この背景には卒業

就職という若者を大人にする定型が崩壊し、新卒者の就職率は50%まで低下し、中途退職者も増えている。定職の概念はもはや現代の若者には無くなったことがある。豊かな社会になってお金のために働くという動機がなくなり、高齢化社会では両親が元気で、いつまでも息子、娘であるという状況では自立して働く動機が迫ってこない。

このような世の中では、若いときに1年ぐらい引きこもって自分をしっかり見つめるといことはむしろ有益な時間といえるが、長くなると袋小路に自分を追い詰めることにもなりかねない。やはりタイミングを見て社会に出て行けるような後押しが必要だ。

引きこもりを取り巻く状況

引きこもりは豊かな社会での甘えと捉えられたり、精神科の治療の対象にもなっている。もちろんうつ病や分裂病などの病気の場合もあるが、最近急増している引きこもりは個人の病気ではなく、現代日本特有の社会病理なのである。精神安定剤等の多用がますますやる気をそいでいるということもある。

彼らは「自分の未来が見えない」から不安なのだ。働くことについて、お金のためだけでなく、社会での役立ち願望が強い。願望と現実の社会とのギャップの中で、決断できないのである。この中で、学校と社会をつなぐ装置、学校に代わる学びの場が必要なのではないかと思い、いろいろ実験しているのがニュースタートのころみといえる。

「ニュースタートの3点セット」

ニュースタート事務局には、多くの引きこもりの子供を持つ親御さんから問い合わせが来るが、なかなか本人が出てこない。それならば出てくるまで付き合おうと同世代のレンタルお姉さん、お兄さんの訪問活動が始まった。最初は訪問拒否が大半だが、定期的に訪ねれば、半年ほどでほとんどの若者に会えるという。

次は親と離れた場所で他人とのかわりか作れる場所として、「若衆宿」という若者の共同生活の場を1999年から浦安、市川、船橋市に7か所つくり、若者が共同生活の中で人間関係を学んでいる。

次に、いろいろな仕事を体験できる「仕事体験塾」。ホームヘルパー養成講座を開き、高齢者のデイサービスと託児所、何でもお手伝い屋を一緒にした「福祉コンビニ」、「喫茶・縁側」、「普段料理・マンマ」IT事業部「タウン・タウン」なども作った。いずれも引きこもりの青年だけでなく、いろいろな人間が集まり、助け合うようにしている。彼らはまた、環境問題にも関心が高く、印旛沼野菜いかだの会に参加しているほか、環境関連の起業を模索しているがなかなか難しいようだ。

世の中では能率重視の仕事が殆どであるのに対して、船橋のニュースタートで経験を積んだ若者は、能率をあまり考えず、スローペースなのが、却ってサービスを受ける側には快適で評判がよい。お金のために働いてきた私たちと違って、「引きこもりの青年たち」は働くことの意味を考え始めた品性豊かな若者たちで、彼らが起業する多様な「働き場」を私たち親の世代も資金や人脈で応援していきたい。彼等のお陰で、21世紀はスローで心豊かに生きられそうだと実感している。

ニュースタート事務局 tel 047-352-7398

fax 047-355-3911

(文責：広報部)

千葉県環境基本計画の基本目標「健全で恵み豊かな環境保全と将来への継承」のための具体的行動計画として環境再生推進計画が提示され、広く県民の提案を織り込むことになりました。

そこで、私たち市民が企画をし、14年3月より県の担当職員が直接、各地域に出向いて意見交換会を開催してきました。

参加者は環境に関心の有る人たち、有機野菜、米、炭、堆肥など循環を生産に取り入れている人たちも参加され、地域で新たな繋がりができ、趣旨に参加する行動が始まっていることが感じられる会でした。

また負の遺産、ごみ不法投棄の解消が目的ではないかとの声も出ましたが、かなり以前からある不法投棄の山のなかでどうしても当事者のわからないものに限ってという県の考えも説明されました。その中で千葉県では国の施策より早く罰則条例をつくり24時間監視しているとか・・・参加していただくとう理解していただけることが多数ありました。

残念ながらまだ環境活動はどうしても一部のひとた

ちにしか目を向けられず、どこの会でもお馴染みのお顔と巡り合います。本音はここに参加していただけない何となく楽しく生活している人たちにも、あなた達の生活の排水や、ごみの不法投棄の中身はみんなの生活の残骸です、全く関係がないと言わないでよもっと広く伝えたいのですが・・・。

意見交換会での様々な現場の声から、県民が具体的に行動していく時のコーディネーターの必要性を実感し、再生計画を県民の身近な行動計画として受け入れ、計画を進める県民としての提案をしていく組織、「ちば環境再生県民の会」が

立ち上がりました。

毎日忙しく過ごして気にはなるのだけれどという方も会員になって、どうぞご意見をお寄せください。あなたの代わりに意見を届けます。そして仲間を集めて、できる事から少しずつ行動し提案していきましょう。

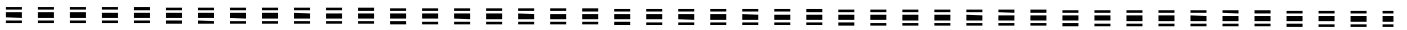
今 千葉はここに住むあなたの手にゆだねられています。

問い合わせ先：

中岡 TEL&FAX (047-385-8950)

ついに活動がスタート！！ ちば環境再生 県民の会

世話人代表 中岡丈恵



環境教育資料作成海老川マップ作りにかかわって（ ）

副代表 平松 南

中山康子さんは、私が共同代表を努める「江戸川環境ネットワーク」の会報の表紙絵を長く担当してくれた人である。私が講談社編集者を勤めていたころ、彼女は美学生として社に出入りして以来の知り合いである。「えどがわままがわ」という会報は、不定期で10年近く、ときに24ページ、ときに8ページと、毎号不揃いで50号ほど発行された（現在は休刊中）。中山さんは、その表紙に繊細な植物画を描いていた。後に手描きからパソコン描きに変ったが、描き下ろした繊細な絵は50点に及び、川村美術館にも展示されたことがある。

中山さんは、イラストマップの経験が余りなかった。広告代理店電通の仕事で描いた妙高高原のイラストマップを見せてもらったが、女性誌によく載せている簡単なイラスト地図程度であった。私たちの目指す作品は、もっともっと詳細で、リアルで、しかも美しいものでなければならなかった。私は、集めている内外各種のイラストマップを示し、中山さんに決意を迫った。「大丈夫です。やって見ます」といつてくれたときは、私も湯下さんも本心ホットした。

千葉県担当者、中央博物館学芸員などとの何回もの打ち合わせ、現地視察、資料の読み込み、試作などを経てきた時点で、中山さんや彼女の事務所のスタッフは、今までと違う仕事の展開に戸惑ったようであった。電通にしても講談社にしても、ここまでは要求が厳し

くなかった。通常出版物との、仕事の質の違いもある。作品を何度も校閲され、手直しをしていきながら完成する作業手順の結果、なかなか完成に近づけないもどかしさもあつたろう。この仕事は、作家としてではなく、職人に徹しなければ出来ない仕事であった。パソコンで描く手法はこの場合、諸刃の剣であった。どんどん手直しが出来る反面、切りなく駄目だしが行われることである。中央博での監修の日、県庁での打ち合わせの日、中山さんが涙目になったことに気づいた人がいたであろうか。

印刷は料金が格安の山形市の印刷所に頼んだ。データはMOに入れて現地に送った。一回のみの色校正も充分とは言えなかったが、とにかく予定通り完成した。中山さんの絵は、力作であった。みなも頑張った。県や船橋市の方々、私たちボランティアのスタッフ、印刷所等などよいものを目指した、邪心のない協力態勢であった。

こうしたなかで、私には予想もしなかった喜びがあった。中山さんの参考下図のつもりで描いた渡辺スタッフの絵が、ノスタルジックでしなやかな作品で、下描きで終わらせるのはもったいないという評価がされ、裏面に堂々と掲載された。海老川は、中山さんの現代版、渡辺君の昭和初期版として、豪華に完成されたのであった。

(完)

千葉を環境県に！ 空散や公共施設での農薬使用禁止を。

有機ネットちば 代表 山田勝巳

6月下旬から7月にかけて夜明けと共に、いつも聞かないバタバタという音で目覚めることがあります。これが田圃に撒く農薬のヘリコプター（有人・無人）による空中散布です。田圃の周りに黄色の三角形の旗が立ち始めたらもうすぐ始まる証拠。時期や時間は、道路沿いに看板表示している場合もありますが、市町村役場に問い合わせると分かります。農薬の空中散布は、水稻、松、ゴルフ場を中心に一部野田市では大豆も散布対象になっています。

全国で実施は23県とその効果がないことと危険性とを秤にかけて中止している県も多く、実施している県でも住民の反対によって面積は年々減ってきています。千葉では54000haが2回に分けて散布されます。

農薬の毒性

空中散布に使われる農薬は殺虫剤と除草剤です。殺虫剤は神経毒で昆虫の中樞神経を麻痺させて殺すものです。除草剤は植物の代謝を阻害して枯らします。急性症状としては、呼吸困難、意識朦朧など重症の例や、下痢、めまい、目の痛み、鼻づまり、発疹、咳、頭痛、アレルギー等の害が出ています。慢性症状としては、環境ホルモン作用があり、アレルギー、免疫不全等から様々な慢性病やガンの原因になることなども懸念されています。飛散の範囲は有人ヘリが広く散布境界から500m離れたところでも農薬が検出され、害が出ています。農薬濃度もその飛散があるが故に空散の方が濃く、希釈度が地上散布の場合500 - 1000倍などが普通ですが、空散の場合5 - 7倍と極めて濃い。特に水源地（湧き水、川上流の水田）の汚染が気掛かりです。また、農薬使用基準には対象以外の作物にかけてはならないことになっていますが、空中散布では広い田圃のあちこちに点在する転作田に植えられたカボチャ、里芋、大豆などを回避するのは極めて困難な状況です。

JAS法改正

「有機ネットちば」では以前から無農薬で安全な農産物作りをすすめてきましたが、有機農産物の表示には混乱もありました。そこで2001年JAS法改正によって有機農産物表示の食品には農薬が使えないし、外部からの飛散による汚染も認められないことが定められました。汚染が出た場合、その農家は認証を取り消されてしまい、場合によっては罰金（最高50万円）を払わなくてはなりません。飛散は死活問題です。農水省との交渉の結果、新しい航空防除ガイドライン（法ではない）の中に、「空散の実施団体は、有機圃場への農薬の飛散を確実に防ぐための徹底した一連の措置を取る」ことが明記され、それを指導監督するのが県や市町

村の役割となりました。

県の環境調和型農業推進室

平成12年に県の農林水産部園芸農産課に、環境と調和した農畜産物の生産振興及び生産環境対策を一体的かつ効率的に推進するため、環境調和型農業推進室が設けられました。

私たちは早速推進室に新しいガイドラインでどのように指導されたかたずねたところ、農水省の実施要領を実施団体に渡して説明することが徹底だと言い、具体的確認作業は出来ないと明言されました。昨年までもらえた空散実施計画書も、そんなものはない、防除協会へ行けと言い、防除協会へ行くと、妨害される恐れがあるので外部へは出せないと言われ、結局県からは入手できず、農水省から入手することになりました。有機農業だけが環境調和型農業とは言わないまでも、推進室に期待していただけに残念です。

現在では地上防除や合鴨、米糠等による除草に変えているところも多く、空散以外の方法が十分に可能です。空散を止めても問題がないことは、既に全国の半分近い都道府県が止めていることが証明しており、県の農政指導もこの方向で環境保全を推進してほしいと思います。

空散110番

共同で活動する空散反対ちばネットでは今年も「空散110番」をさくら・市民ネットワーク事務所内に設けています。今年も7月22日から29日までの空散が集中する時期に受付します。これ以外の期間でも可能ですので、空散に関する危被害や心配事、相談等お気軽にお電話下さい。秘密は厳守しています。また各市町村でも苦情受け付けをしています。

TEL：043-462-0618(10am-3pm)、FAX：043-489-0797

空散反対住居表示を

有機農業推進連絡会（有機ネットちば）では、空散反対圃場登録を実施しており、今年まとまった31軒分を提出しています。今後、反対登録圃場を増やすと共に公共施設や水源地、民家への飛散防止を徹底するようみなさんとの協力で進めたいと考えています。飛散防止するためには、対象圃場周辺から最低200m離すことが必要です。

空散被害があるなしに関係なく、「嫌だという意味表明」を空散反対住居表示として登録しませんか。また公共施設での地上散布も止めてほしい等がありましたらどんどん登録して下さい。ご連絡をお待ちしています。

有機ネットちば：0476-94-0867（FAX） 山田

印旛沼水質浄化を目指して



ーボランティア活動を通して思うことー

佐倉印旛沼ネットワークの会 金山 英二

印旛沼は自然に恵まれ、利水の価値も非常に高い。沼は昭和 44 年に竣工した印旛沼開発事業により現在の沼になり、治水の安全性が確保され、飲料水、工業用水の利水量は増大しましたが、水生植物は全滅に近い状態になり、淡水魚、鳥類に影響を及ぼすなど、生態系は一変しました。また、その頃から流域の人口増、生活の変化、工業化、農畜産業の拡大等により、水質汚染が著しく進んでいます。

私たち「佐倉印旛沼ネットワークの会」は、ボランティア活動を通じ、印旛沼の自然・歴史・文化の再生を目指して、平成 11 年 12 月から活動を始め、現在 113 名の会員で活動を続けています。

1. 清掃活動

最初に取り組んだのが、佐倉ふるさと広場を中心とした印旛沼や鹿島川、高崎川の道路・堤防の清掃です。5 月 30 日のゴミゼロの日、10 月の印旛沼水質浄化推進運動の日、佐倉朝日市民マラソンと佐倉チューリップ祭り前、さらに当会独自の春・秋季にも行っています。

沼や川の水際のゴミや堤防に不法投棄された粗大ゴミの除去は関係機関にお願いしています。さらに流域 16 市町村の官と民が一体となって流域河川の定期清掃とゴミ投棄の防止対策の実施を千葉県・水資源開発公団・印旛沼水質保全協議会に働きかけ、最近になってやっと理解が得られかかっているのが、実現にむけて努力を続けます。

2. 印旛沼連絡協議会の設立

印旛沼をきれいにしたいと活動している流域の団体は少なくはないのですが、連合会のようなものはありません。そこで「NPO 法人印旛沼広域環境研究会」と「NPO 法人印旛野菜いかだの会」および当会で「印旛沼連絡協議会」を結成し、初めて後述の印旛沼水質保全計画の説明会を開いたり、「よみがえれ印旛沼県民大会」の実行委員として加っています。これらを通して、16 市町村の環境ボランティアのネットワーク結成を目指しています。

3. 「印旛沼湖沼水質保全計画」

印旛沼は水質汚濁では手賀沼について全国ワースト 2 で、飲料水供給の源水汚濁ではワースト 1 です。これは住民の生命にもかかわることで水質浄化は必須の課題です。

印旛沼は昭和 60 年に湖沼水質保全特別措置法の指定湖沼になり、県が 5 年ごとに「印旛沼湖沼水質保全計画」を策定し、水質浄化を推進しています。今年、3 月に第 4 期の保全計画が策定されましたので、上記の

「印旛沼連絡協議会」では県の水質保全課の方を招いて 6 月 22 日に説明会を開きました。このような説明会のはじめてとのこと。

水質浄化の主な柱は下水道・合併処理浄化槽の普及推進、都市排水路の整備、家庭雑排水対策の推進など従来からの手法で、実施の実態は市民の皆さんが体感されている程度であって、それ以上のものではないと思われます。

次に印旛沼の治水・水環境の総合的整備を検討するために、学識経験者、民間団体、行政機関等で構成する「印旛沼流域水循環健全化会議」を設置し、浄化プラン作りを進めることになっています。これは 13 年 10 月にたちあがり、私も民間団体の一員として参加していますが、道程は遠く険しいと感じています。

印旛沼の水質汚濁の発生源別汚濁負荷量は農地、森林、道路からの自然系が 52% と生活系 42% より多いので、この削減対策として、適切な施肥法の改善、流出しにくい肥料の推進、森林の適正管理、道路側溝や小水路の清掃などの促進、自然環境の保護などがあげられています。これらの対策は関係者の利害が相反することや、誰がいつまでにどのように実施するかという点がわかりません。これらについても県や関係者にしっかりとした対策の策定や実施を求めていきたいと思っています。

4. 「よみがえれ・印旛沼」県民大会

水質保全計画が実施されて 15 年を経過した現在も沼の COD 値は 11ppm で水質基準の目標値 3ppm にはほど遠い状態です。その一因は、印旛沼の水質保全計画には手賀沼で効果のあった浚渫・導水・河川浄化施設・水生植物植栽などの実施や設置が策定されていないからです。これらは国土交通省の「利根川・印旛沼総合開発事業」によって行われるはずでしたが、利水の需要が伸びないので平成 13 年 11 月に着工が中止されました。このため、流域 16 市町村・県・印旛沼漁協、水資源開発公団などで構成されている「印旛沼水質保全協議会」は 13 年 12 月には国や国会議員に陳情を行い、また 7 月 31 日には「よみがえれ・印旛沼」県民大会を佐倉市で開催し、広く県民に印旛沼の水質浄化や治水安全度の重要性をアピールする予定で、多くの市民団体が協力することになっています。

印旛沼の水質浄化推進の計画や事業はまだこれからというのが実感です。これからは官、産、民が一体となって総合的で具体的な諸策を策定、推進して実効を挙げてほしいと思います。

エコメッセちば2002を一緒に創りましょう

今年で7回目になるエコメッセちば 2002 を右のとおり開催します。本年度はこれまでとは大きく状況が変わり、5年間続いた県のエコメッセ補助金がなくなり、運営についても市民団体・企業・行政の協働による実行委員会に委ねられました。

エコメッセのあり方を検討委員会で検討してきましたが、エコメッセちばを継続しようという声のもと、実行委員会および運営委員会を立ち上げることができました。実行委員長に環パちば代表の横山さんにご就任いただきました。エコメッセ実行委員会の自立を図ることが急務になっています。エコメッセの開催費用については、これまで公的な補助金と企業の広告協賛でまかなってきましたが、今年はさらに市民スポンサーを募集します。くわしくは、同封しました資料をご覧ください。

環パちばの皆様には、ぜひエコメッセちばの趣旨にご賛同いただき出展をお願いします。

エコメッセちば 2002 運営副委員長 小川かほる

日時：2002年 11月1日（金） 11:00～18:30
11月2日（土） 10:00～16:00

場所：JR京葉線 海浜幕張駅北口広場

今年の重点取り組み：

地球温暖化防止のために木を植えよう

エコメッセ開催の目的：環境保全活動（市民・企業・行政）の紹介、環境に配慮した商品の販売（グリーン購入）環境教育（気づきから行動へ）、パートナーシップの全国発信、交流の場

主催：エコメッセちば2002実行委員会

ホームページ URL

http://www.makuhari.or.jp/ECO2002/ECO_2002index1.html

環境再生 に向けて

環境シンポジウム2002千葉会議の準備進む！

環境シンポジウム運営委員長 石井 皓

1. はじめに

2002年5月24日に環境シンポジウム千葉会議の第1回実行委員会を開催。「環境シンポジウム2002千葉会議」（11月17日 日 日大生産工学部津田沼キャンパス）を担う実行委員の総会であり、新たな活力を生む会でした。8回目にふさわしく議題として新たな活動の方式と内容が承認され、シンポジウム開催に向けての活動が楽しく進んでいます。

2. 実行委員会の継続性と自立性

今までの実行委員会は年度の終わりに解散していましたが、「環境シンポジウム千葉会議実行委員会規約」を定め、継続する体制にしました。実行委員会が「環境シンポジウム2002千葉会議」の企画書を作成し、財団法人千葉県環境財団に提示し、財団と共催します。

このために実行委員会の自立性と開催に向けての事務の合理化が必要です。月に1回ほど開催してきた実行委員会は年度初めとシンポジウムの前後の計3回として、分科会長・部会長・事務局からなる運営委員会を月に1回開催し、事務の促進を図ることとしました。シンポジウムは年に1回ですが、環境保全活動は通年のものであり、分科会活動の通年化によってシンポジウムを「交流の機会・場」として充実させるとしました。部会活動はシンポジウムの円滑開催を実現させる活動であり、広報、ポスター・リーフレット、報告書作成、当日運営の各部会活動、当日のプログラム集作成WGの活発化を図っています。

事務局体制とその機能の充実も重要です。事務局は

従来からの環境財団環境学習推進室に置いていますが、環境シンポジウム千葉会議に関する照会は下記にさせていただければ幸いです。

電話：090-2906-3936 090-6308-8470

FAX：04-7175-3221

電子メールアドレス：chibakaigi@hotmail.com

3. 大学の協賛を得て、キャンパスを会場とする試み

参加者数が500名を超え、分科会の会場を併設すると会場選びが大変です。今回は日本大学生産工学部のご好意により同学部の協賛を得て開催します。そして、副実行委員長・分科会会長・部会役員に大学の教員・学生の参加を得まして準備を進め、大学を含めた交流の場となることが期待されています。

4. 分科会活動

「温暖化防止」、「ゴミゼロを目指す」、「里山」、「水・川・湿地」、「環境学習」、「環境再生」、「学生のアクション」の7分科会を設定しました。分科会あたり100名規模の参集を予定しています。これらを交流の場として活用して頂きたいです。

5. これから

市民・企業・行政・大学のパートナーシップの基に自立した運動体として活動するためには理念・人事・財政を確立させたフルタイム8時間労働の後の3時間のNPO/NGO活動を含めた取り組みが必要であると考えています。今年は未広がりの1年目として参加者・実行委員の皆様のご汗と英知でこれらの取り組みを充実させて行きたいと考えています。

お知らせコーナー

第 8 回エコサロン

日 時：8 月 23 日（金）
 講 師：倉坂秀史さん（千葉大法経学部助教授）
 内 容：「環境を守るほど経済も生活も向上する！」
 参加費：500 円（資料代）
 会 場：市川公民館（JR市川、京成線市川真間下車）
 担 当：中岡 TEL&FAX（047-385-8950）

第 2 回環境未来都市 EXPO2002

テーマ：環境新世紀 - 循環型社会の形成と新しい“街づくり”をめざして -
 主 催：日刊工業新聞社 グリーンフォーラム 21
 会 期：9 月 4 日（水）～ 7 日（土）4 日間
 10：00～17：00（最終日は、16：30 まで）
 会 場：幕張メッセ（日本コンベンションセンター）
 入場料：無料

平成 14 年度環境を考える講座

浦安市日の出公民館環境講座

- 8 月 31 日（土）10:00～12:30 日の出公民館
東京湾と三番瀬の水の結びつき三番瀬、東京湾全体の
浄化に役立つ多様な生物
千葉県環境研究センター 小倉久子
- 9 月 7 日（土）9:00～13:00 多様な生き物と干潟
の表情 * 荒天時、日の出公民館にて講義。
千葉県野鳥の会副会長 田久保晴孝
- 9 月 21 日（土）9:00～13:00 谷津干潟自然観察センター
渡り鳥の地球的、地域的ネットワーク
* 荒天時、観察センター内から観察と講義。
谷津干潟自然観察センターレンジャー 芝原達也
- 9 月 28 日（土）10:00～12:30 浦安市郷土博物館
あなたの見つけた三番瀬の魅力を伝えよう！
進行：浦安三番瀬クリーンアップ 横山清美
問合せ：日の出公民館 Tel.047-355-8831
申 込：8 月 20 日（火）（必着）までに、官製はがきに
住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、〒279-0013 浦
安市日の出 17 番地 日の出公民館「環境を考える講座
係」 応募多数の場合抽選。

千葉県環境研究センター公開講座

日 時：8 月 2 日（金）9:30～15:30
 会 場：東京電力袖ヶ浦火力発電所（袖ヶ浦市中袖 2 - 1）
 内 容：「自然観察アクティビティ」
 講 師：佐々木 洋氏（プロ・ナチュラリスト）
 募集人数：40 名（申込先着順、参加費無料）
 申込方法：電話、FAX、e-mail で受付
 その他：当日は、長浦駅北口（海側）からマイクロ
バスを運行しますので、利用される方は申込時にお知
らせください。昼食は、各自持参ください。

日 時：9 月 14 日（土）13 時 30 分～16 時
 場 所：千葉県環境研究センター 水質地質部
 水質棟会議室（千葉市美浜区稲毛海岸 3-5-1）
 演 題：生活排水と浄化槽
 ビオトープの水質浄化に果たす役割
 申し込み、問い合わせ先：
 電話：0436-24-5309 FAX：0436-23-2870
 E-mail：kankyoken@ma.pref.chiba.jp

ホテルサミット

日 時：10 月 26 日（土）午前 10 時～午後 5 時
 場 所：勝田台市民文化プラザ
 内 容：基調講演
 横須賀市自然博物館 大場信義博士（予定）
 事例発表及びワークショップ
 事務局：八千代市経済環境部環境保全課
 〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5
 電話：0436-24-5309 FAX：0436-23-2870

広報部より

- だよりに皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せ
ください。
- ホームページに団体名簿をアップする予定です。
ホームページのリンクや連絡先としてメールアドレス
等の記載をご希望の方はご連絡ください。

広報部連絡先

FAX：047-450-8468

E-mail：motosato@pop07.odn.ne.jp

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活
 動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境
 市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報
 交換と交流を深め、行政および専門家との
 パートナーシップによる活動の展開を図る
 ことを目的としたネットワークです。

申込先：千葉県環境財団環境学習推進室気付
 TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969
 会費納入先：環境パートナーシップちば
 郵便振替口座 00160-9-401872
<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/>

千葉県環境財団環境推進学習室気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
 会費を添えて入会します

氏名		入会年月	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人 1,000 円 団体 2,000 円 賛助会員 5,000 円		

